

2002 年度デジタルポートフォリオ・プロジェクト報告書

第 2 部 調査編

第 4 章

デジタルポートフォリオ学習・評価活動における教師の第 2 回実態調査報告書

I はじめに

デジタルポートフォリオ・プロジェクト（以下 DPP）は、デジタルポートフォリオを授業と授業評価に活用するプロジェクトである。そして、デジタルポートフォリオを授業と授業評価に活用することの効果をあきらかにすることを目的とし、デジタルポートフォリオのより一層の有効的な活用を目指すプロジェクトである。プロジェクトの研究実践に用いる題材は、コンピュータを使用する図画工作科題材「○○の気持ち」である。この題材において、1) DPP の Web Site にプロジェクトメンバーが作成・更新するデジタルポートフォリオ、2) 学校サーバーにデジタルワークカードを保存・集積するデジタルポートフォリオを活用する。この題材の授業実践後、「DPP の Web Site を活用した授業」「デジタルワークカードを使用した授業」「DPP の Web Site による授業公開」の実態を調査する。調査は児童と教師と保護者を対象にアンケートによって実施する。

本報告書は、第 2 回教師用アンケート調査の結果を報告するものである。

II 研究の方法

1. 目的

指導した教師たちが DPP に対してどのような考えを持っているのかを探る。

- (1) 「「○○の気持ち」みんなの作品発表会」での教師の活動の状態把握
- (2) 「子どもの部屋の内容」と「先生の部屋の内容」に対する教師の感じ方・とらえ方
- (3) 「デジタル・ワークカード」に対する教師の感じ方・とらえ方

2. 方法

(1) 調査対象教師	石川県金沢市立鞍月小学校	5 年生担当
	熊本大学教育学部附属小学校	5 年生担当
	和歌山県かつらぎ町立大谷小学校	5 年生担当
	千葉県柏市立旭東小学校	5 年生担当
	大阪教育大学教育学部附属平野小学校	5 年生担当
	石川県野々市町立御園小学校	5 年生担当
	石川県金沢市立南小立野小学校	5 年生担当
		合計 7 名

- (2) 調査期日 2002 年 12 月 1 日～同年 12 月 21 日

(3) 調査項目

○あてはまる番号を「ご回答 []」の中にお書きください。

A、「〇〇の気持ち」みんなの作品発表会についてお聞きします。

1) 児童のコメント登録のために時間を何分ぐらい確保しましたか？

ご回答 []

1、30分以内

2、30～60分

3、60～90分

4、90分以上

2) 「〇〇の気持ち」みんなの作品発表会についてのご感想をお願いします。

<自由記述>

B、「先生の部屋」の「授業の様子」についてのご感想をお願いします。

<自由記述>

C、「先生の部屋」の「私のデジタルワークカードとその使用方法」についてのご感想をお願いします。

<自由記述>

D、DPP の活動全体について、ご意見、ご感想、エピソードや事件などがありましたらお書きください（第1回アンケートと重複してもかまいません）。

<自由記述>

追加調査項目

第2回教師用アンケートの「D、DPP の活動全体について、ご意見、ご感想、エピソードや事件などがありましたらお書きください（第1回アンケートと重複してもかまいません）」の自由記述において、以下の項目に対してのご意見を記述願います。

●デジタルワークカードを毎回記述させたことについて

(4) 手続き

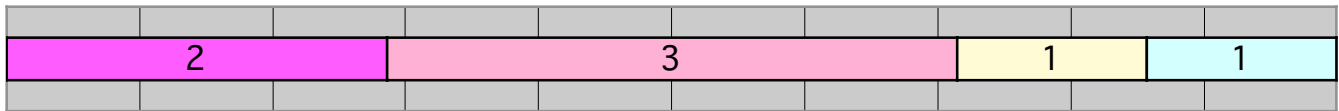
質問紙法によるアンケートを電子メールで実施した。

Ⅲ 結果と考察

A、「〇〇の気持ち」みんなの作品発表会についてお聞きします。

1) 児童のコメント登録のために時間を何分ぐらい確保しましたか？

時間	人
30分以内	2
30～60分	3
60～90分	1
90分以上	1



■30分以内 ■30～60分 □60～90分 □90分以上

児童のコメント登録に確保した時間は、授業実践者によって3倍の違いがあった。学級担任と図画工作専科の違いによって、時間確保の状況に違いがあるものとする。また、授業実践校のコンピュータ環境、特に回線の速度とマシンスペックの違いが、作品を閲覧しコメントを登録する同様の手続きにおいて必要となった時間の差にあらわれていると考える。

2) 「〇〇の気持ち」みんなの作品発表会についてのご感想をお願いします。〈自由記述〉

- 子ども同士には、いい刺激になったように思います。これからの「鑑賞」のあり方のひとつとしてあってもいいのではないのでしょうか。
- コメント入力を楽しみました。しかし、ISDNでは、作品が開かない！教室で全員が同時に使うと、一つ開くのに5?10分、コメント入力に5分?10分、の繰り返しをすると、だいたい1時限で1つか、多くて2つにしかコメントできませんでした。
- 私としては珍しく、1回の図工の時間をすべてアンケートの回答と作品発表会の鑑賞に費やしました。費やしたというより正しくニュアンスが伝わりませんが、それだけの時間を子供たちに確保してやろうと思いました。それぐらい、子供たちは楽しみにしていたようです。
- 遠く離れた学校の作品を見て、相互評価できることを子どもたちがとてもよこんでいた。校内だと似たような作品が多くなってしまいう傾向があるが、他校の作品は、もととなるモノの目の付け所や、コンピュータでの表現の方法などが異なり、作品を見て刺激を受けたようだ。また、ちがいを意識することで、友達の作品の良さだけでなく、自分の作品の良さも認識するきっかけとなった。
- こんなふうに他校の仲間との作品の交流の場があることがすごく幸せなことだなと感じていました。どれを見ようかなと選ぶときに、大判の印刷で作品を一覧できたことはとてもよかったです。自分のコメントがようやく見える！速く見たい！という気持ちがあふれていました。送ってもらったコメントもうれしそうに受け止めていました。もっとこうなれば・・・と言う点を考えるとすると、作品制作からコメントに出会うまでの時間が短くなればもっと子ども達にとっての旬な時に活動が進められるのかな、と思います。
- この作品の発表会は、とても喜んでおりました。他の学校の子もたちの作品を見られるというのは、WEB

ならではものだと思います。ただ、インターネットの表示が異常に遅くなったのが悔やまれます。

- 今回のプロジェクトはポートフォリオのデジタル化が目的だったでしょうが、過去を振り返らない子供にとっては、この作品発表会がとても楽しかったようです。学級内では鑑賞会「いいところ見つけカードへの記入方式」を頻繁にやっていたので、スムーズに展開しました。・作品がパソコンを使った動画であること。・他校5年生が同じ題材の作品を鑑賞できること この2点から、デジタル化の必要感があったのです。他の手作り作品ですと、リアル感に欠けるのだと感じます。同じ時期に、木版画を能登島小の4年生と作品交流をしました。同じ木版画をしていた4年生にとって、実物の版画はリアル感があって感動していました。これが、ネットではこうはいかないのでしょうか。ネットでの交流にはパソコンで作った作品が適しているのだと感じました。パソコンの必要感を味わわせること、また教師はアナログの世界とパソコンでのデジタル化を子供にどう出会うかを見極めて判断する必要があると感じてました。

Web 上での作品発表会とその相互評価のよさを評価した教師が多い。子どもたちのお互いの作品を鑑賞する目が学級内・学校内から学校外へと格段に広がることを良いこと捉えていることがわかる。また、普段おこなっている相互評価の取り組みが、DPP の活動でも活かすことがわかる。授業実践中に児童用パソコンの機種や回線が最新のものに更新した実践校があったが、マシンスペックや回線の遅さへの不満がよせられた。DPP の活動とその企画は、現在考えられる最高のマシンスペックや回線速度を想定したものではない。しかし、現在市販されている一般家庭用のパソコンと比べ、マシンスペックがあまりにも劣るコンピュータ環境で授業をおこなった授業実践者は、児童作品の閲覧、児童作品へのコメント登録において、多大の負担をかける結果となった。

B、「先生の部屋」の「授業の様子」についてのご感想をお願いします。〈自由記述〉

- ほかの先生の授業を見ることは、すごく参考になりました。ただもっとリアルタイムに見ることができたら、授業に生かすことができたと思われそうです。
- 自分の分を、後半分のみですが自分で編集したことが、ふり返りになりました。また、他の先生方のアプローチや技術がわかる、すばらしいページになっていると思います。
- 先生の部屋の授業の様子については、動画を閲覧できるという点がよいと思っております。さすがにあの画質とサイズですので、臨場感とはいかないまでも、どのようにして授業が展開できたのかと言うことを参観できるという意味では大変先進的な取り組みだと考えています。今後、ネットワークがさらに高速化することで、大画面できれいな映像を配信できるようになると考えられます。バーチャル授業参観が身近になってきていると感じています。
- 子どもたち同様、他の先生方の取り組みを知りたいへん良い刺激となった。作品からだけでは伝わりにくい授業での雰囲気や、子どもたちの反応を見ることができ、たいへん参考になった。また、自分の授業については、振り返りに役立てることができた。
- いろいろな先生の実践の様子が、視覚的に見れることは細かな所までとても参考になりました。「今日のメッセージ」なども刺激を受けていましたが、「授業の様子」が一番実践の様子がわかりよかったです。HPでのあらわし方もよかったです。
- 授業の様子を動画で公開できるのは魅力があると思います。どうやって作品を見せていくのか、というのは文章だけでは伝わらないからです。私の場合は専科ですので、学級懇談会の時に、その様子を公開する旨を保

護者に伝えて承諾を得る予定です。

- 他校の先生の授業実践をみられることは勉強になりました。

「先生の部屋」の「授業の様子」を 2002 年度の DPP の大きな成果の一つとして捉えている。授業実践者にたいへん好評であった。特に授業実践者の相互評価に役立っていることが述べられており、ビデオであるメリットが活かされたことがわかる。リアルタイムで授業の様子のビデオを授業実践中に見たいという意見は、デジタルポートフォリオの活用の方法として注目したい。しかし、このコンテンツを授業実践後の授業ふり返りに活用する DPP の活動の趣旨と離れる。2002 年度の授業の様子のビデオ掲載のシステムの中での実現は、授業実践者に多大な負担が発生することが予想される。

C、「先生の部屋」の「私のデジタルワークカードとその使用方法」についてのご感想をお願いします。

〈自由記述〉

- これも、非常に参考になりました。ただ、やはりリアルタイムに載せていくことができたらと思いました。方法などもっとメーリングリストで相談をかければよかったと思いました。
- PDF でダウンロードして使用可（紙媒体のみですが）のところも、いいですね。
- このページは、各先生方の工夫と努力の集大成のページだと思います。こうした情報をより広く共有していただけるようなシステムを作ることが求められているのだと思います。
- 各校の環境や子どもたちの実態に応じて、様々な工夫がされていることが分かった。他の学校の先生方にも使ってもらえるような形にまとめられないだろうか。また、「〇〇の気持ち」だけでなく、他の教科にも活用できそうなので、試してみたいと思っている。
- それぞれの実践者によって異なるいろいろなワークカードが紹介されているところがよかったです。
- デジタルである必要性は何かを考えていく必要があると思います。紙の方がむしろいいのではないか、といったものもありました。私としては、CGI スクリプトを上手に活用して、子どもたちが WEB 上から入力できるものの方がいいと思います。そのような仕組みを作るべきだと思います。こうした情報をより広く共有していただけるようなシステムを作ることが求められているのだと思います。
- 児童の実態によってずいぶん差があると感じました。こればかりは、一律にいかない。

「先生の部屋」の「私のデジタルワークカードとその使用方法」を 2002 年度の DPP の大きな成果の一つとして捉えている。授業実践者にたいへん好評であった。特に授業実践者の相互評価に役立っていることが述べられている。統一したデジタルワークカードを複数の授業実践者が使用する提案や他教科での活用を検討したいという意見があり、デジタルワークカードの内容・形式・方法などのフォーマットが今後の課題で必要であると考えられる。さまざまな意見がよせられた。授業実践者がワークカードをデジタルにするメリットを意識して、目の前の子どもたちと学校のコンピュータ環境に適合するデジタルワークカードを設計して、授業に活かすといった基本的な取り組みが今後も重要であると痛感した。また、紙のワークカードのメリットも活かすデジタルワークカードの使い分けの重要性が再確認された。

D、DPP の活動全体について、ご意見、ご感想、エピソードや事件などがありましたらお書きください（第1回アンケートと重複してもかまいません）。〈自由記述〉

- 教師の授業の様子は、自分自身のふりかえりに役だったと思います。この有意義なページに限られた人数のためではなく、もっと多くの教師や児童のものとなればよかったと思います。それにはコンピュータが得意な教師だけではなく、だれにでも気軽に取り組めるものを掲載していくべきだと思います。はじめはどうなるものかと思っていましたが、鷲山先生のご尽力と実践された先生がたのがんばりで、得られたものは大きいのではないかと思います。来年度、どういう方向に持っていくかがこれから、この DPP のページが生きていくことにかかっていると思います。
- 保護者は感心を持ってきていましたが、実際に自宅で開いてみてもらった家庭は4分の1以下で、また、アンケートも回収率が非常に低くなりました。反面、以前に ML でアップしたとおり、——最近 D-プロジェクトの話題でY子とよく話しをしています。21日の夜にも、「また山田先生ね、D-プロジェクトで新しいのを見つけてきたんよ。」とその経緯を教えてくださいました。さっそく夜に見せてもらいました。なるほど、Hくんが事務局賞に選ばれていました。5年生全員の作品を見せてもらいました。皆力作ぞろいだったように思います。私個人的には、Dくんの作品がやるなーと感心しました。その他の友達の作品も、色の使い方、ボカシ方など上手に工夫していたように感じました。山田先生のご指導のおかげで子どもたちは、貴重な経験をさせていただいていると思います。有難うございます。Y子が、D-プロジェクトの話しをしてくれる時の様子ですが、「山田先生ねー、今日また D プロジェクトで何か見つけてきてねーみたら締め切りが今日なんよ。それで皆で大急ぎで仕上げたんやで。大変やったわ。」と、嬉しそうに話してくれます。口では、アーヤ・コーやいいながら、子どもたちも結構楽しんでいると思います。——というふうに（これはキャラクター編ですが、このお父さんはポートフォリオも見てくださっています。）、情報教育に関心を持ってくださる保護者もいます。しかし、当地方では、まだまだ「雲の上の…」のようです。
- とにかく、12月より授業を始めたために、すべてのことがぎりぎりにならないとできあがらないと言う事態に陥ってしまいました。さらにそういったバタバタの状況の中ではいろいろなトラブルも生じるものでして、最大のトラブルは、本校のパソコンルームのサーバーが、ワークカードを記入中にダウンしてしまったことです。あのときには、目の前が真っ白になる思いでした。ただこうした複数の教師による共同授業研究というのはこれからさらに重要な取り組みになってくると思っております。このDPPがそうした取り組みのよいサンプルになるといいと考えています。
- コンピュータで図工作品を作るだけでなく、友達や教師、保護者など多くの人の感想をもらえることは子どもたちの意欲を高めると感じた。また、デジタルワークカードを使って振り返ったり、コメントをもらって考えたりしたことを反映して、よりよい作品に作り直しができることは、コンピュータの良さの一つであると実感した。
- これまでの様々な実践研究は、同じ学校内や市内や近隣地域の教員との間で行ってきたように思います。その点から考えると今回のDPPではいままで出会ったことのない他県の先生方との間で共通の実践について取り組めたことが何よりもよかったことだと思っています。HPを通じてその実践に触れられる。言葉1つ1つ、先生と子どもの位置までも刺激的でしたそしてまた、HPだけでなく1回でも実際に生の先生方に会って交流できたことがこのDPPの活動に体温を与えたように感じています。
- ネット上でのトラブルが多かったのが問題点でした。ただ、DPP の取り組み自体は面白いと思いますので、ぜひ一般の教師が参加できるようなデジタルポートフォリオの構築を今後も目指した方がいいと思います。

- 学校のパソコンリテラシーの実態によって、差がある。学校のパソコン指導のカリキュラムがどうなっているかによると思う。担任の先生がパソコン指導に力を入れれば、簡単にリテラシーが向上するといった段階ではなく、1年生からきちんとカリキュラムを組み指導にあたる必要がある。しかし、授業時数確保が難しく総合105時間の中でどれだけ確保できるかは、各学校のプランによって違ってくる。本校は英語科が年間70時間、命の学習が35時間と設定されているので、情報教育のリテラシーを指導する時間的保証は存在しない。

授業実践者は、DPPの活動への取り組みを通して多くのものを得ていることがわかる。特に子どもたちと授業実践者自身が授業をふり返ることができたこと、多くの人たちと交流ができたこと、コンピュータを使った授業や題材のよさを実感できたことがあげられている。同一の学年・題材・時期での授業実践であったが、児童・教師のコンピュータスキルと各実践校のコンピュータ環境に差異があった。こうした差異に対する支援が要求された。こうした差異をDPPの研究実践の障害にするのではなく、各実践校での研究実践の特長を生み出す要因にするとともに、そのことをポートフォリオしDPPのメンバー以外の教師が今後の授業実践に活かせるDPPページの作成が重要である。

E、デジタルワークカードを毎回記述させたことについて

- 本校分については、ほとんど紙媒体になりました。スマイルで作成する分についてですが、金沢での会議委で話が出ていたように、自由な発想を阻害してしまう可能性もあるので、ストーリーを思いつかない児童などが使用するようにした方が良かったように思います。ただ、今回の活動では、子ども達はストーリーを紙に書くことを楽しむことができました。
- デジタルワークカードを毎回記入させたことについてですが、私の場合は毎回記入させていません。やはり、制作の時間を確保したいと考えます。現在、ワークカード等を用いたポートフォリオを作成することは、評価を行う上でも大変重要な要素であるとして、関心が高まっていますが、それと同時にワークカードを作成する時間に関心が寄せられるようになりました。いかに効率よくワークカードを作成することができるようになるかということが課題になっているのだと思います。デジタルワークカードがそうした問題を解決できるものなのであれば、デジタルワークカードは一般化していくものなのだと思います。
- 子供にどんな力を付けるか明確にし、指導にあたる必要があると思う。そうした視点から、毎回のデジタルワークカードはあまり必要感を感じなかった。作品のポートフォリオは完成後に制作しているが子供たちは手書きでじっくりと思いや考えを書き込んでくる。それをファイリングしてあるが、3～4年間保存することで長いスパンで子供の成長をみれるよさがある。パソコンでの毎時間の変容を細かく追求することは、研究目的になりがちである。

毎時間使用することのメリットとともにデメリットが述べられている。全授業実践者から回答を得ていないが、題材「〇〇の気持ち」において毎回デジタルワークカードを使用する必要性を多くの授業実践者は、感じていない。二人で一台の児童用パソコンの環境や、児童のコンピュータスキル、書き込みに要する時間、デジタルワークカードが毎回使用することを前提に設計されていなかったことがそのように感じている原因として考えられる。デジタルワークカード自体は、授業実践者より良い評価を得ていることより、デジタルワークカードを効果的に活用する場面設定が重要であることがわかる。